

皇學館 第22号

発行・編集：学校法人皇學館(総務課)
TEL 0596・22・6308

伊勢学舎 [法人本部・大学院・専攻科・文学部・教育学部]
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704番地
TEL 0596・22・0201(代) FAX 0596・27・1704

名張学舎 [大学院・社会福祉学部]
〒518-0498 三重県名張市春日丘7番町1番地
TEL 0595・61・3351(代) FAX 0595・61・3350

高等学校・中学校 三重県伊勢市楠町138
【高校】〒516-8577 TEL 0596・22・0205(代)
【中学】〒516-8588 TEL 0596・23・1398(代)

現代日本社会学部 宮川泰夫学部長(予定)、 抱負を語る

平成二十二年四月に誕生する「現代日本社会学部」の学部長に宮川泰夫氏の就任が決定した。宮川学部長(予定、以下同じ)はこれまで愛知教育大学教授、九州大学大学院教授などを歴任。現在、東海旅客鉄道顧問を務めるなどビジネス界においても重鎮として広く知られており、国内外での教育・研究活動に多忙な日々を送る。今回はおよそ半年後に迫る「現代日本社会学部の始動を前に、新学部設立への抱負を伺った。



宮川泰夫 みやかわ やすお ●昭和18年宮城県。専門は地理学、地域計画論、風土文化産業論など。主な著書に『工業配置論』『平和の海廊と地球の再生』『地域の創成と文明の開化』などがある。東海旅客鉄道顧問、(財)気会評議員。

国学の拠点を作り、 日本を体現できる人材を育てたい

少子化など大学を取り巻く環境が厳しくなっている今、「現代日本社会学部」を設立する意義をお聞かせください。

海外において「日本学」は総合科学として一般化していますが、それに対応する機関が日本には乏しい。本当の意味での日本研究の中心基地を確立する必要があると考えたのが第一の理由です。

個人的には現代日本を生き抜いていける人たちが育てたい。というのも、これからは人間の生活を豊かにする「厚生」と地球や地域の「環境」が非常に重要で、これらを原動力に産業が革新する時代になる。たとえばリサイクルするにしても、自然に害を及ぼすことのない分解できる物を作る。そうしたことをしっかりと考える文化と「厚生」「環境」の技術が一緒になって初めて現代の文明を開いていくことができるわけです。

本来、日本人はそれを

「感得」の教育を大事に

その思いを現実化するにはどのような取り組みが必要だとお考えですか。

皇學館は建学の精神に基づき皇学と郷学の場としての歴史がすでにあります。その上で「感得」

可能にする潜在能力があるものの、欧米諸国の社会や考え方が優れていると刷り込まれてきたために力を十分に発揮してきませんでした。そのことに個人的に危機感を抱いていましたから、今こそ変革の好機と捉え、どこへ行っても日本を体現できる人を育てよう。まさに命をかけるだけの意義がある。それが、私自身の思いです。

歴史ある伊勢の地から 新しい日本を築く

周りの人といえ、学部長は内外の学界・教育界のみならずビジネス界や産業界など幅広い分野に人脈をお持ちと伺っています。

新学部の設立にあたり各界からエールを送って

自らをさらに生かすところまで持っていけます。植芝守、央道主自ら指導する合気道もこの実践教育の象徴です。何気なく過ごしていると感じがけないことも、言われるとわかってる学生は多い。私たち教

える側が普段から「問いかけ」を大切にしている。そのポイントを指し示し、学生の学びの力を伸ばしたいですね。幸い、僕を取り巻く人々は理解を示し、面白いと言ってくれていますよ。

- 今号の注目記事
- 1面 現代日本社会学部 宮川泰夫学部長(予定)、抱負を語る
 - 2面 初の教員免許更新講習を本学で開催
 - 3面 義足のアスリート・佐藤真海さんが講演
 - 4・5面 学生責任編集ページ 英国留学体験記
 - 6面 〈高校・中学〉エコキャップ回収運動
 - 8面 河南大学首脳部が来学 学園祭告知 皇名祭・倉陵祭
- 連載
- 2面 皇學館人物列伝③ 武田千代三郎
 - 8面 皇學館ミュージアム 豊臣秀吉朱印状

宮川学部長が講演 第二回 人文學會大会 日本の相生文化について

七月五日、伊勢学舎四三二教室において第二回人文學會大会が開かれ、特別招へい教授として九州大学名誉教授を務めている宮川泰夫学部長が「地球化の意味と局地化の意義——甦る日本・相生の文明——」の意義——甦る日本・相生の文明——をテーマに講演を行った。

講演の中で宮川学部長は日本が「相生」という独自の文化を醸成させてきたことに言及。他の優

れたもの、相克の関係にあるものですらいち早く自分のものにできる風土が日本の技術に深くしみ込んでいくと語った。その上で、日本はこの伝統的文化を再び活性化し、



多くの聴衆が集まった。

新たな人間の倫理と自然の摂理に留意した広義の文明開化を結実させることが大事と話した。

ビジネス界から期待のメッセージ

(現代日本学部入学案内より抜粋)



揺るがぬ理念で、
社会に奉仕せよ
石丸 典生
株式会社アソシー 特別顧問
十六世紀、ガリレイに始まる自然科学の発達とその後の産業革命によって人類は安全と便利を獲得した。しかし人間は享楽を追求した結果、今日の環境破壊を招いたのも事実だ。その反省に立ち、我々は科学万能主義を脱し、哲学と社会性の大切さを見直す時にきている。だからこの時期に現代日本社会学部が誕生し、しかも諸君が新学部を志すようになっていることに敬意を表したい。日本思想の中心である伊勢の地で日本文明の究明をめざすことは、世界を支える社会科学の基盤指針を究明することに他ならない。現代日本社会学部の学生が、将来、国内外に雄飛し、この地を日本研究の世界的拠点を育て、それを実践できる力量を備え、日本と世界の未来を変えてくれるものと信じている。



現代日本社会学部に期待する
東海旅客鉄道株式会社 相談役
須田 寛
私は学生時代から現代まで歴史とくに日本史に興味と関心を持ちいろいろな本も読み多くの先生方の講座講演に出席して私なりに勉強してきました。そのなかで皇學館大学の先生や卒業生の方々の著書に接し又お話を承る機会がありました。そこで皇學館の先生方が今の日本の教育に欠けている確かな信念を持たれ、それに基づく独自の史観を持っておられることに感銘を受けた記憶があります。しかし皇學館は一般市民にとってこれまでやや遠い存在でした。入学資格に制約があった時もあり戦後は長い廃学期もありました。復興後も学科が限られていたからです。今回現代日本社会学部という幅広い分野の新学部ができ、皇學館が多くの人々にとってより身近な大学になることは誠に心強いことでもあります。新学部が正しい史観と理念をもって研究を深められ、これまでの大学にない新しい日本学・日本文化を開かれることを期待して止みません。

残暑を乗り越えて、ようやく稔りの秋を迎える。瑞穂の国。瑞々しい稲穂の垂れる姿は、古来、国家や人々の安寧の象徴でもある。この季節、みずからの来し方や、今を、じっくりと省みるのも良い。利那のときの重なりが、私たちの未来永劫の世界を形成するのだから▼問もなく、学園祭が催される。今年の皇名祭のテーマは「誇り」である。自分に対して持つ誇りは、他者を認め、尊敬する精神にも通じる。自己を大切に、友人を敬い、みずからを生き、育んでくれる親をはじめとする周囲の存在に気付くこと。誇りとは、日々の生活の蓄積から染み出るものだろう▼一方、倉陵祭の今年のテーマは「煌き」である。そして、今年も、両学舎の合同企画が引き継がれるという。名張学舎からは福祉体験企画が、伊勢学舎からは神道体験企画が考案された。これまで両学舎の特色を踏まえた合同企画を通して、相互の理解の推進・定着、その一体化を目指してきた▼平成二十三年度から、学舎は伊勢に統合される。誇りから発せられる煌きが、一条の光となって、宇宙の彼方へと届く。皇學館の夢の始まりにふさわしい秋である。



初の更新講習を本学で開催

八月十八〜二十三日、第一回の教員免許更新講習を伊勢および四日市会場で開催した。五日間三十時間におよぶ講習を両会場であわせて約三百五十名が受講した。



岩崎正弥氏による講義風景。

本学伊勢会場では百九十二名が受講

夏休み中の八月十八〜二十二日、まず本学伊勢学舎にて教員免許更新講習が行われ、愛媛県、大阪府、愛知県など県内外から百九十二名の教員らが受講した。

今年一月に教員免許更新講習開設の認定を文部科学省から受け、伊勢学舎と、四日市市の「じほさん三重」(八月十九〜二十三日)の二会場で開催した。教員免許更新講習は、

選択科目に「伝統の心と技」

十八、十九日の二日間は必修領域として「教職」についての省察「子どもの変化」「教育政策の動向」(学校の内外における連携協力)についての理解「など」をテーマに講義を展開。後半の三日間では、選択領域として「伝統と文化の理解」「生徒指導および教科内容の充実」などをテーマに講座が開かれた。

講師陣は、本学の教授や外部講師も多数参加。特に二十一日の「伝統と文化の理解」では本学非常勤講師でもある建築家・岩崎正弥氏が務姿で登場し「伝統の心と技」について講義。日本の伝統建築を中心とした内容を

に受講生たちは興味深そうに聞き入っていた。教師生活三十年以上という名張榎木丘高校(名張市)教諭・上山弘信さんは「想像していた以上に大変。最後に試験があるが、限られた時間の中で必要なといけないので必死です。また教師二年目という南が丘小学校(津市)常勤講師の中出淳子さんは「いつもは声をかける立場だが今回逆の立場になって色々な面で勉強できるいい機会です」と語ってくれた。

110番の正しい使い方を学ぶ 伊勢学舎で「110番の日」イベントを開催



座談会では、活発な意見交換がなされた。

一一〇番に対する適切な使用方法を市民に広く知ってもらうため、伊勢警察署によって毎月十日

に実施されている「110番の日」が七月十日、伊勢学舎で行われた。

まず、犯罪を未然に防ぐための啓発活動として昼休みの間、学生達に身近な犯罪に関して記した印刷物を配布。夕方には、若手警察官と学友会・留学生との座談会が執り行われた。座談会では本学出身者の若手警察官による経験談をはじめ、一一〇番に関するイメージ、自転車の盗難に対する防止方法、引ったくりに関する実演説明、薬物に関する認識等、学生にとって身近に迫りつつある犯罪に対して真剣に話し合いが行われた。なかでも一一〇番に対するイメージについては「緊急時の手段」や「身に危険を感じた場合に助けを呼ぶ」との意見がある中で、「道に迷った場合に連絡する」との意見も。現在、通報内容が多様化し一一〇番の利用件数が年々増加している。そのため、即座に対応することが困難な場合があり、犯罪性の低いものには、できる限り交番へ連絡するが警察安全相談室(＃九一〇〇)へ問い合わせるよう説明がなされた。

七月十一日、「館友教員懇談会」が本学伊勢学舎を会場に開催され、出席者百四十三名という盛況ぶりをみせた。従来は高校教員のみを対象に全国九会場で行っていたが、本年度は幼稚園・小学校・中学校・高等学校等で活躍の先生方、更には教員OBにも案内。初めての試みだったものの、遠くは四国・九州などからも参加いただき、大いに盛り上がった。

館友教員懇談会に143名が来勢



正式参拝に先立ち、記念撮影(内宮宇治橋前)。

当日は内宮正式参拝に始まり、伊勢学舎で「説明会」を実施。学長の挨拶の後、大学の現況報告、新学部説明、特別支援教育の紹介、教員免許更新講習について説明を行い、質疑応答では活発な意見交換が行われた。



大学の現況説明(伊勢学舎二号館)。

また、あまたの貴重な意見をいただくなかでは本学発展のため、館友教員と本学が更に関係を強化し、入学者確保にむけタッグを組む必要があるとの提言もい

たけだちよさぶろう◆福岡県柳川生。帝国大学法科大学を卒業後、内務省入省。秋田山口・山梨・青森の各県知事を歴任し、大正二年九月から同七年四月まで神宮皇學館長。わが国の運動競技の基を築いた。一八六七〜一九三二。

皇學館 人物列伝 3

武田千代三郎

たけだちよさぶろう

四県の知事を歴任し、館長へ 運動競技の発展に尽くした「駅伝」の名付け親

大正六年四月、東京遷都五十年記念として京都から東京までの「寛都記念駅伝徒歩競走」が開催された。「駅伝」の始まりである。名付け親は神宮皇學館長で大日本体育協会副会長の立場にあった武

田千代三郎である(一説に命名者を土岐善磨とするが、これは土岐がこの駅伝の主催であった読売新聞社の社会部長であったことによる)。このこと一つを取り上げてみられるように、武田はわが国の運動競技の振興に大きく寄与した人物で、著書『理論実験競技運動』に示されるようにスポーツマンシップの涵養とルールに基づく競技会(運動会)の発展に尽くした。

武田は皇學館にとつて第六代の館長であるが、勅令(天皇陛下による命令)に基づく館長としては第一代にあたる。在任中、館町から倉田山への校地移転の時期にあたり、当時画期的な一週三百メートルのグラウンド整備を図っている。また、平民宰相・原敬の来館対応や夏目漱石の第五高等学校時代の愛弟子で三四郎のモ

デルともいわれる漢文学の湯浅廉孫教授との議論などからも窺えるように学生に与えた影響も大きかった。

文面とは別に武田の事績で忘れてはならないのが神宮皇學館長の前職、青森県知事時代の十和田湖開発である。大町桂月によって知られるようになった十和田湖について皇太子殿下(後の大正天皇)のご下問に答えられなかった武田は帰県後すぐに視察。その景観に魅了され「十和田湖保勝論」を書く。仙境は道路や鉄道の開通によって凡人俗悪の地となり、一朝にして荒廃する。十和田の美を守るためには人道による往来、質素な旅舎で観光者を待たせたいとする。先進的な環境保全を主とする開発方針であった。十和田湖畔に立つ高村光太郎作「乙女の像」は昭和二十八年十和田国立公園指定十五周年にあたり、武田千代三郎・大町桂月・小笠原耕一(法典沢村長を顕彰して建てられたものである)。

国文学科准教授 齋藤 平

女子走り幅跳び 義足のアスリート 佐藤真海さんが講演

義足による走り幅跳びの日本記録保持者で北京パラリンピック第六位入賞の実績を持つ佐藤真海さんが七月二十三日、名張学舎に來校し、学生およそ百人を前に障害者スポーツについて熱く語った。

「義足は個性」といえるまで

佐藤さんは早稲田大学 一 ぎ骨肉腫を発症。右ひざに通っていた十九歳のと 一 下を切断する。進むべき道を模索する中、足を運んだ障害者スポーツセンターで身体を動かす喜びを改めて実感。走り幅跳びの選手としてパラリンピック出場をめざす。小学校ではスイミング、中学では陸上競技をやってきた運動能力の高さからめきめきと頭角を現し、競技を始めてわずか一年ほどで日本代表に選出。アテネに続き北京への出場も果たし、現在四メートル四・六の日本記録を持つ。



質問に笑顔で答える佐藤さん(中央)。「障害はネガティブなことじゃない」と話す。



話をしているのに、わたしはウィック(かつら)を付け、慣れない義足で杖をつきながらぎこちなく歩く日々。いつしか家に閉じこもって泣いてばかりいるようになりまし

福祉は夢のある仕事

聴講した学生の中には将来「障害者スポーツ指導員」(以下、指導員)をめざしている学生も多く、佐藤さんの実体験に基づく話に興味を傾けていた。講演後は質問タイムもあり、「指導員に心掛けてほしいことは」という問いかけに対し佐藤さんは「自然体で接してほしい」と回答。自身の経験から指導員を「心を開くことができた最初の外の人」と表現し、特別扱いすることなくむしろ厳しく導いてくれたことがありがたかったと話した。社会福祉学科四年の山本菜穂さんは「障害者スポーツの現状」を卒研テーマにしていることもあり、今日の話はとても参考になった」と話していた。同一年の高田巧樹さんは佐藤さんの著書『夢を遊ぶ』を読んだことが本学に入学するきっかけになったといい、「佐藤さんが母親から教えられた、神様はその人」と自身が感じた心の内について包み隠さず語る佐藤さん。しかし、スポーツに出会い自分にもできるものが見つかったことで、以前のようにもう生きる意味はない」などと思つことはなくなり、本来の明るさと笑顔を取り戻すように。できないことを数えるのではなく、できることを広げていくことが大切。義足は個性」と言えるまでになりました。

学部と大学院を京都で過ごした約十年間は、古都の風情を身体にしみ込ませるには充分すぎるほどの時間でした。そして、この京都での生活が、恩師をはじめとする数多くの人びとの出会いの場となり、その後の私の人生を決定づけることになりました。

かくや姫の曲に「加茂の流れに」というのがあります。短い詩のなかに、祇園と清水、嵐山での男女の愛が凝縮されています。五十鈴川沿いの早朝ジョギングの原点は、賀茂川のそれに遡ります。住まいを下鴨や出雲路としたのも、哀愁をただよわせる賀茂の流れに魅せられたからです。川面に映る四季の変化と人生の想い出が重なりあって流れます。

祇園で一献傾ける度に、せせらぎを求めて鴨川の堤にたずみました。川面に揺れる灯りをみつもながら、愛を語ったこともありましたが、昔刑場や墓場であったことも知らずに。

地酒との出会いも大学院の頃に遡ります。以来、六百種を超える

私の学生時代

リレーエッセイ

私の原点 — 京都 —

文学部コミュニケーション学科 教授 外山 秀一
立命館大学大学院修了



美酒と佳肴は、私を至福の時と陶酔の世界に誘います。桜の季節や月夜の晩、紅葉の時期、はたまた雪の降る日には、後輩たちが拙宅に集い、花見酒、月見酒、紅葉酒、雪見酒などと呼称する宴が年中行事となりました。

春の梅と桜に始まり、新緑、紅葉と落葉、時雨や雪などの四季折々の変化、こうした時の移ろいとともに催される各種の祭や年中行事は、自然と人が織りなす京都ならではの風物詩です。感性豊かな文学や芸術が生まれる所以でしょうか。重層する古都の歴史には、その風土と人びとの営みが綴られており、両者が時空間のなかで交差します。

学生の頃の視線でみた記憶のなかの風景は、鳥瞰図となって立体的によみがえり、セピア色とカラフルの景色が角度を変えて重なりまします。街の景観は変わったものの、遠い日の想い出は、私の心のなかに生き続けています。

京都は、私を育ててくれた原点なのです。

学生支援推進プログラムに採択！

就職満足度の向上を目指す

文部科学省の平成二十一年度「大学教育・学生支援推進事業」(学生支援推進プログラム)に申請した「せんはい」トピックから始まる就職満足度

活動に出遅れる学生が多いことに着目。調査の結果、学生が現場のリアルな体験や自分の将来像を思い描ける場を求めていることが明らかになった

援機関などを結ぶネットワークを構築。相互理解を深めるなかで学生が自ら考え自身の判断によって進路選択できるようバックアップする。具体的には「せんはいトピック」で卒業生と出会い、「職場体験付講座」で実際の現場を体験。新たに「SNSキャリアアロム」で交流を図り、「ビジネスプランコンテスト」に挑戦という一連のプロセスを活用。幅広い職業人としての資質を養い、へ就活スキル」の向上をめざす。

ビジネスアイデア求ム！ 第2回「皇-1GP」開催

昨年に引き続き、皇學館大学ビジネスプランコンテストの開催が決定した。このコンテストは県内・周辺地域の高校生や大学生などを対象に、地域を元気づける新しいビジネスの芽を育てようと(財)三重県産業支援センターの助成を受けて始まったもの。第1回大会では本学からの参加者が見事2位、3位を受賞した。応募要項などは下記の通り。

【応募期間】
10月1日(木)～11月24日(火) 13時 必着
【公開プレゼンテーション大会(2次評価)】
平成22年1月23日(土) 13時～ 伊勢学舎にて開催

- 【参考】第1回大会結果
- 1位 「キッチン・ローカル・ベジタブル」 (三重高校2年)
 - 2位 「旅ごころ ～笑顔のひきだし～」 (皇學館大学2年)
 - 3位 「福食!! パン屋さん」 (皇學館大学3年)
- 皇-1賞 「熊野古道の街から三重県熊野市へ」 (三重大学3年)
皇-1賞 「安心ふくし経験」 (皇學館大学3年)
皇-1賞 「福祉フラワー」 (皇學館大学3年)

※1位受賞プランは、農家で売り物にならない不揃い野菜を利用した健康志向のコミュニティレストランの創業が、基本コンセプトでした。

詳しい募集要項・申込書等は
<http://fukushi.kogakkan-u.ac.jp> をご確認ください。

教職員人事

- 退職** 平成21年7月23日付 高等学校・中学校 ALT **ダネット・サリバン**
平成21年8月31日付 社会福祉学部事務部学務課 書記 **高橋 知香(旧姓 大下)**
- 採用** 平成21年8月1日付 高等学校・中学校 ALT **トーマス・リチャード・マーラー**
平成21年9月1日付 事務局総務部総務課付 事務嘱託職員 **サミュエル・アネスリー**

生活編



リポーター：大西彩也香(教育学科2年)・竹内千晶(教育学科1年)

気候は1日に四季があると思うほど目まぐるしく変化した。日本の蒸し暑い夏と違い、カラッとしていて快適だ。北海道の夏に近いかもしれない。また、サマータイムを導入しているため、夜は9時過ぎまで明るい。飲食店やスーパー以外の商店は6時には閉店するため余暇の時間が長く、優雅な暮らしぶりを垣間見た気がする。

● 緑と公園・庭

ロンドンもケンブリッジもじつに緑豊かだ。大きな公園が点在し、芝生ではクリケットやフットボール(サッカー)を楽しむ市民の姿が見られる。郊外に出れば田園風景が広がる。また、どの個人宅でもきちんと手入れされた庭を持っている。自然との近さを感じた。



● パブ

英国といえば、パブ! パブはパブリック・ハウスの略で、英国人にとって欠かせない場所。庶民の憩いの場、社交場として親しまれている。ロンドンでは昼休みにビジネスマンがビールを飲む光景も…。生活習慣の違い?

● 交通

ロンドンでは市内を網の目のように結んでいるチューブ(地下鉄)が便利だ。トンネルに入ると一時車内の照明が消えることがあるのは愛嬌?! また、赤い2階建てのダブル・デッカーバスも移動には欠かせない。マウンテン・バイクもよく見かけた。日本でいうママチャリはほとんど見ない。英国では右折や左折時の手信号を出すことは当たり前のようなものである。私も子どもの時習ったものだが…。



その他、信号が少ない。代わりに、ラウンド・アバウトというロータリー式の交差点が多い。ラウンド・アバウトは時計回りの一方通行。左右折・直進に通行のルールがある。信号待ちがなくいいのだが、慣れるまでに時間がかかりそうだ。



● 水

英国は水が豊か。ビールやスコッチが有名なものわかる。水道水は問題なく飲めたが、硬度は高い。ミネラル・ウォーターにはStillとSparkling(炭酸ガス入り)があり、注意して買わなければいけない。



食事編



リポーター：日沖奈美(社会福祉学科2年)・福井 葵(社会福祉学科2年)

「英国料理については述べるまでもない」とよく言われるが、意外においしかったというのが正直な感想。とれたての素材をシンプルかつ大胆に調理するのが特徴だ。



● イングリッシュ・ブレックファスト

「英国でおいしいものを食べたかったら、3度朝食をとることだ」の言葉があるほど、ボリューム満点。ソーセージにベーコン、マッシュルームに焼きトマト、バイクドビーンズに目玉焼き、トースト等が一皿に山盛りになっている。



● フィッシュ&チップス

白身魚(主にタラ)のフライにフライドポテトの盛り合わせ。グリーンピースを裏ごししたマッシュ・ビーが付くこともある。英国人はこれに強烈なおいのモルト・ピネガーをたっぷりかける。日本人には???



● ムール貝

“Mussel”と呼ばれる。日本ではあまり食さないが、バターや玉ねぎと煮た白ワイン蒸しはスターター(前菜)として最適。貝では生牡蠣も人気だ。



● ブローン・カクテル

茹でたエビに酸味の効いたサウザンアイランドソースを絡ませ、レモンを絞った一品。英国人も日本人同様にエビ好きのようだ。



● スキャンピ

フィッシュ&チップスの仲間だが、こちらはタラでなく、スキャンピと呼ばれる小エビのフライ。フライドポテトとグリーンピースが付け合せになることが多い。



● チーズ

とにかく種類が多くて安い! チーズ好きにはたまらない。その他、ソーセージや生ハムも安くおいしい。これに関しては、味も価格も確実に日本より上だ。



● インド料理

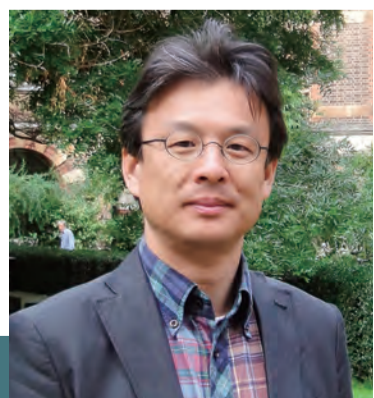
インドは英国の植民地だったこともあり、街中のいたるところにインド料理店がある。代表的メニューであるチキン・ティッカは、「英国の国民的料理」と呼ばれるほど。



● ビール

やはり種類が豊富。日本のビールはほとんどがドイツ式のラガーだが、英国のビールは風味豊かなビター(エール)が多い。色も味も濃い目だが、二日酔いしないのはなぜ? その他、サイダー(シードル)と呼ばれるりんご酒も人気だ。

クローズアップゼミ 研究室探訪3



コミュニケーション学科 豊住 誠ゼミ

私のゼミでは英語の教え方や教材について考察しています。英語を初めて学ぶ中学生を主な対象としていますが、小学校英語活動の先行実施に伴い、小学生も視野に入れています。私が専攻として英語教育学を選んだ理由は……実は自身中学生の時に英語が大の苦手科目だったので、学習初期につまづくことがないようにするにはどうしたらいいかを真剣に考えたからです。今の英語教育はかつてのように文法指導オンリーではなくコミュニケーション重視ですが、本格的に英語をマスター

しようと思えば英語の構造にも意識を向けなければなりません。そのあたりのスムーズな移行も研究テーマです。

ゼミではまず英語の基礎力をしっかりつけるため洋書を精読していま

ゼミで読解力を身につける!

す。ゼミ生がこれまでに使ってきた教科書は原文を一部改変してあったり、巻末に注釈の付いた学習者向けものがほとんどですから、そうした親切が施されていない専門書の講読はかなり手応えがあると思います。

厚さ10センチもある大英和辞典やオックスフォードの英語辞典を参照しなければ理解できない文にも出会います。4月・5月ごろは1ページの読解(解読?)に1週間以上もかかっていたものが、12月頃には1日で1ページ読めるようになり、「英語を読むことが怖くなくなった」とか「英字新聞の英語が簡単に思える」といった成果を語ってくれたゼミ生もいます。本当の英語力が身に付きつつある証明で、ある時期に徹底的に読解力を高めることは、英語力の伸びに大きく役に立つと思います。

学生責任編集ページ

学生記者募集!.....興味のある人は総務課まで!

K O D A I S M

英国留学体験記

私たち8人はこの夏、英国に約3週間留学しました。歴史はもちろん、伝統的な文化、ガーデニングや風光明媚な自然、国際色豊かなシティ……。音楽やパフォーマンスなどの芸術も見逃せません。知れば知るほど楽しい国、それが英国。今回は各パート別に現地で見えて体感したことをレポートします。



ケンブリッジ編

リポーター：西岡玲奈(コミュニケーション学科3年)・井阪菜々絵(社会福祉学科2年)

ロンドン編

リポーター：安藤さゆり(国文学科3年)・村田鈴美(国文学科3年)

ロンドンから電車で45分ほどの場所に位置するケンブリッジ。中央をケム川が静かに流れるこの町は、31のカレッジが集まる学術都市でもある。ケンブリッジ大学といえば世界を代表する名門校。卒業生にはかのニュートンやダーウィン、ワーズワース等、各界で活躍した著名人は多く枚挙に暇がない。数あるカレッジの中でも私たちは、白洲次郎が在籍したことで知られるクレア・カレッジで学んだ。レンガや石造りの学舎とゴシック様式の教会が調和する中世の美しい町並みに囲まれながら、その歴史と「英国の知性」に触れた2週間であった。



クレア・カレッジでの語学研修。

「ロンドンに飽きたとき、その人は人生に飽きたのだ」(作家 サミュエル・ジョンソン)と評されるほど、エネルギーあふれる街。長い歳月に培われた歴史や風習を守り続けていく一方で、新しい文化や芸術を次々と生み出している。古き良き伝統と最先端の流行がこん然と溶け合っている。それこそがロンドン最大の魅力!



●セント・ポール大聖堂

ロンドンというと、ビッグベンやロンドン塔、あるいは大英博物館あたりを真っ先に思い浮かべるかもしれない。しかし、印象が一番強く残ったのが英国国教会の大聖堂。1708年完成、高さ111.3m、全長157m。市内を一望できる「金の回廊」までは1167段の階段が続き、思わず足がすくんでしまう。ドーム天井の壁画にはめまいすら感じるほどだ。金で施された彫刻も豪華絢爛。その名の通り、ささやき声はるか離れた対面に届くという「ささやきの回廊」も面白い。



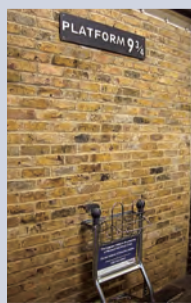
●バッキンガム宮殿

ご存知、エリザベス女王が居住する宮殿。ラッキーなことに、8~9月には内部のステートルームが一般開放されており、見学することができた。そこはさながら美術館のようで、数々の絵画や調度品、豪華な天井の装飾に往時の英国の繁栄が思い浮かぶ。また、宮殿前で繰り広げられる衛兵交替式も見もの。背筋がピンと伸びた衛兵たちの一糸乱れぬ行進は優雅で壮麗。遠くから見るとゼンマイ仕掛けのおもちゃのように見えなくもない。



●キングス・クロス駅

ケンブリッジやエディバラなど英国北部へ向かう列車が発着するロンドンの駅。『ハリー・ポッター』シリーズで魔法学校へ行くホグワーツ行の特急が出る駅でもある。構内には、9と3/4番線ホームへの入口と、途中まで入った形のカーゴが再現されている。



●キングス・カレッジ

ヘンリー6世によって1441年創設された最も権威あるカレッジの一つ。チャペルは、「ゴシックの華」とも呼ばれ、ケンブリッジのランドマークとなっている。扇の文様が浮き上がった天井、繊細に造られたステンドグラス、ルーベンスの「三賢人の礼拝図」は見る人誰もが息をのみ、立ちすくんでしまう荘厳さ! 聖歌隊も世界的に有名だ。



ノーベル賞受賞者を数多く輩出するケンブリッジ最大の名門。映画『炎のランナー』で、正午の鐘が鳴る間に一周する中庭はこのカレッジのグレート・コート。A.A.ミルンの『くまのプーさん』の手書き原稿やニュートンのリンゴの木も必見だ。



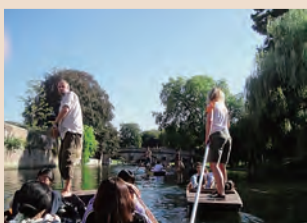
●パンティンク

舟底が平らなパントと呼ばれるケム川を下るパンティンクはこの町の名物で多くの観光客が乗船する。7つの橋と6つのカレッジを見ることが出来る。カレッジはケム川の両岸にそれぞれバックスと呼ばれる緑地(庭園)を備えており、ケム川上から眺める景色は格別。中でもセント・ジョーンズ・カレッジの「ため息の橋」は特に美しい。長い物干し竿のようなオールを使って自分で漕ぐこともできるが、中には落ちたりする人も!



●数学の橋

ヘンリー6世の妃・マーガレットによって設立されたクィーンズ・カレッジにある木造の橋。幾何学的な奇妙な形もさることながら、数学の理論をもとに設計されており、昔は釘を一本も使っていないかったというエピソードが面白い。



本校生徒、文武で活躍

「近畿まほろば総体」と銘打ったインターハイ（全国高等



学校総合体育大会が七月二十八日から八月二十日にわたり、奈良県を中心に京都・大阪・兵庫の各会場で開催された。団体競技にはバレーボール部(男子)とバスケットボール部(男子)が出場。入賞こそ逃したものの大健闘。本校の名を全国に知らしめた。

全国高等学校野球選手権・三重県大会では野球部が大応援団の見守る中、堂々のベスト四進出。惜しくも準決勝で優勝校の三重高に敗れ甲子園出

場の夢は果たせなかつたが、雪辱を晴らすべく来年に向けて決意を新たにしました。また、文化面においても本校の活躍にはめざましいものがあった。

六月十四日に開催された第五十九回中日書道展において三年生の野口紋奈さんが佳作に入選、八月十一日に実施された三重県吹奏楽コンクール高等学校A編成の部において、吹奏楽部が金賞を受賞した。八月八日、U12ジャパン主催のスピーチコンテストではE.S.S部の山崎中さんが見事最優秀賞に輝き、中村有衣さんも敢闘賞を獲得した。

ダネット先生アメリカへ帰国



離任式でのダネット先生。「Believe in yourself」の言葉を残して。

A.L.Tのダネット・サリバン先生が七年間に及ぶ本校での奉職を終え、七月いっぱい離任された。先生には授業をはじめ種々のコンテストへの参加や入賞、本校の重要な行事の一つとなったスピーチコンテストの立案・運営に精力的に尽力いただき、英語教育のみならず本校の知名度ア

高校総文祭みえ

七月二十九日から八月二日にかけて、全国高校総文祭みえ09が実施された。今回は三重が主催県となっており、「くらし国三重」この場所、この時に情熱で作り上げるわたしたちの舞台」をテーマに伊勢市朝熊町のサンアリーナを中心とした各会場で様々なイベントが実施された。本校



2時間に及んだパレード。

からはパレードのプラカードを担当した各クラブの生徒を中心とした生徒百三十七名、教員二十七名、総勢百六十四名が大会運営に参加。吹奏楽部が開会ファンファーレ、書道部が三重県文化会館ギャラリーでの作品展示、茶

道部が呈茶などで協力した。競技部門では囲碁大会に澤山隼也君が出場し、一年生ながら二勝四敗と健闘した。

皇高NEWS

皇中NEWS

七夕の日に クラス対抗スポーツ大会を開催

七月七日に二期生スポーツ大会が実施された。種目はソフトバレーボール。各クラス



熱戦を繰り広げていたワンシーン。

が男女別に四チームに分かれて競い合った。

一年生はサーブやレシーブがなかなか決まらず苦戦しているなかでも笑顔が絶えることなく試合を楽しんでいた。二、三年生は上級生らしく白熱した試合展開を披露。すべての優勝チームが全勝での勝ち上がりという、素晴らしいチームワークが見られた大会でもあった。総合結果は優勝三A、準優勝三B、リーグ優勝は男子青リーグ二A、緑リーグ三A、女子赤リーグ三B、黄リーグ三Aであった。



勝利の笑顔。

一年生が一泊二日の宿泊研修

◆合歓の郷

七月三十日から一泊二日で一年生が合歓の郷で宿泊研修を実施した。

一日目、教育勸語の講義を学年主任の先生から受け、一生懸命理解しようという真剣さが伝わってきた。その後、雨のため室内で合唱とレクリエーションを実施。長縄跳びや二人三脚など仲間との協力のもと行う競技で、



室内レクリエーション。

団結力が増していった。雨は夜も降り続きキャンプファイヤーはできなかったが、代わりの室内レクリエーションでは疲れを感じさせないほどの盛り上がりを見せた。二日目、校長先生からの命令の講義から始まり、昨日と同様に集中して耳を傾けていた。そして小雨のなか「ブル

ーパールを探せ」というウォークラリーを行った。数々のヒントから宝箱を探し出すゲームはみんなの気持ちが最高に盛り上がり、その熱い気持ちが天に通じたのか次第に雲が晴れていった。最後にみんなでこの二日間の思い出を振り返りながら昼食を食べ、宿泊研修を終えた。

八名が教育実習で本校へ

本校出身者を中心に

七月中旬、中学校でエコキャップ回収が始まった。ペットボトルキャップを再資源化することで地球環境を改善でき、約八百個集めると一本分のワクチンが買え一人の命が助かる―それを聞いたある生徒が学校でもできるのではないかと提案した。

ペットボトルのキャップを分別回収するだけという手軽さもある約一カ月で八百個程度集まった。これからも続けていきたい。

ごみ収集所のキャップ回収ボックス。

六月八日から三週間に渡り、国語八名、社会二名の計八名が教育実習を行った。最初は生徒とのコミュニケーションも上手く取れず悩んでいたようだが、二週目になると廊下で「先生」と呼び止められ話している場面がしばしば見られるようになった。実習生たちは「生徒との距離が縮まる度に自分の成長を感じられる」と放課後も生徒との時間を大切にしていた。

研究授業の日程が決まると担当教師の指導のもと、日々



最後の終礼(2年B組)にて記念撮影。

惜しんでいた。

◆創立百三十周年・再興五十周年記念事業
皇學館高等
学校創立五十周年・皇學館中学校創立三十五周年記念事業
寄付者芳名

学校法人皇學館の周年記念事業募金につきまして、ご協力いただいた方々に心より厚く御礼申し上げます。掲載は八月三十一日までの到着分とさせていただきます。

創立130周年・再興50周年記念事業寄付金
進捗状況

平成21年 8月31日現在

区 分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗 教 界	634	776,147,000	742,627,000
館 友	715	78,494,000	74,819,000
篤 志 家	44	31,305,000	31,185,000
専 の 会	1,855	79,528,000	79,528,000
企 業	103	61,375,000	60,515,000
本法人関係	247	57,632,000	56,647,000
合 計	3,598	1,084,481,000	1,045,321,000

- 専の会(保護者の会)**
博士前期課程 文学研究科
三万円 新田 竹代様
神道学専攻科
十五万円 中村 昌司様
三万円 落合 和榮様
一万円 阿部 重信様
一万円 丸谷 恵子様
文学部神道学科
十万円 竹内 正二様
六万円 山元 義清様
五万円 内田 悟様
五万円 鈴木 徳則様
五万円 高倉 盛克様
- 山形県**
十万円 鳥海月山両所宮様
(山形市宮町)
- 茨城県**
五十万円 筑波山神社様
(つくば市筑波)
- 宗教界(神社界)**
四十万 修様
阿蘇 惟之様
石井 英之様
大菅 憲一様
大坪 丈夫様
大野 康孝様
奥山 哲治様
神守 実一様
川上 恵三様
川尻 孝紀様
河野 博人様
木村 正一様
木村 直彦様
木村 勉様
佐伯 勉様
佐々木 等様
白石 真三様
須藤 茂様
泉波 孝幸様
館 栄二様
立 延族様
田中 史夫様
谷口 学様
土屋 邦仁様
角鹿 尚計様
中田 吉彦様
- 文学部国文学科**
三万円 永山 哲弘様
三万円 成瀬 晴男様
三万円 橋本 利光様
三万円 平林 盛生様
三万円 福長 政文様
三万円 藤田 尚佑様
三万円 藤原 清次様
三万円 前野 浩規様
三万円 巻幡 俊様
三万円 松林 操様
三万円 松山 和生様
三万円 三笠麻由美様
三万円 三井 一廣様
三万円 三ツ矢順之様
三万円 森 秋文様
三万円 森 隆一様
三万円 矢崎 隆一様
三万円 柳川 明彦様
三万円 築瀬 睦様
三万円 山本 裕美様
三万円 山本 能庸様
三万円 吉崎 幸一様
三万円 渡會 隆広様
- 文学部国文学科**
三万円 太田 眞弘様
三万円 葛西 隆様
三万円 上川原 誠様
三万円 神部 尚弥様
三万円 小林 芳文様
三万円 寺田 浩通様
三万円 永井 清様
三万円 成瀬 栄治様
三万円 原 正信様
三万円 平石 肇様
三万円 廣澤公仁枝様
三万円 廣澤 広雄様
三万円 宮澤 謙様
三万円 山下 謙様
三万円 魚岸 一男様
三万円 奥山 憲一様
三万円 小野 隆久様
三万円 粕谷 清明様
三万円 片岡 靖正様
三万円 柴田 俊一様
三万円 曾野 隆義様
- 文学部社会学科**
三万円 竹内 晶子様
三万円 中西 宏之様
三万円 中村 擁様
三万円 野呂 昌己様
三万円 橋場 敏様
三万円 服部 晴美様
三万円 松井 寛様
三万円 松田 廣志様
三万円 宮崎 和之様
三万円 村上 信二様
三万円 山下 和義様
三万円 吉田真理子様
- 文学部教育学科**
三万円 新井 正人様
三万円 加藤 量平様
三万円 佐藤美保子様
三万円 杉谷 政樹様
三万円 田村 吉弘様
三万円 松岡 正夫様
三万円 松村 悦男様
三万円 向井 正明様
三万円 森 仁子様
三万円 山本 千利様
- 文学部ミニテーション学科**
六万円 石橋 明彦様
三万円 梅村ひとみ様
三万円 潤田 安弘様
三万円 奥野 幸良様
三万円 木戸上忠司様
三万円 久保 登様
三万円 谷岡 衛様
三万円 谷中 誠様
三万円 平松 久雄様
三万円 水谷 文俊様
三万円 池田 高志様
三万円 宇佐美秀臣様
三万円 大塚 章郎様
三万円 川北 文夫様
三万円 小田谷 司様
三万円 泉波 孝幸様
三万円 堀 勝則様
三万円 間柄 能成様
三万円 松本 寛司様
三万円 安江 利浩様

- 教育学部教育学科**
三万円 山内 清美様
三万円 山崎 辰雄様
三万円 横山 正様
三万円 新井 正人様
三万円 市野 博司様
三万円 岩田 利彦様
三万円 鶴岡 薫様
三万円 江尻 健様
三万円 岡田 鉄也様
三万円 狩野 守正様
三万円 小寺 哲様
三万円 神保 方正様
三万円 高橋 豊様
三万円 寺田 和政様
三万円 寺本 之人様
三万円 中北 智様
三万円 山内 清美様
三万円 西川 利明様
三万円 延本 知重様
三万円 福武 幸治様
三万円 水野 孝夫様
三万円 水本 昌克様
三万円 山口 八郎様
三万円 山路 元彦様
三万円 山路 久昭様
三万円 山本 和孝様
三万円 芳川 雅行様
- 学校法人皇學館教職員**
三十二万円(二万円増額)
堀井 史仁様

皇學館高等学校創立50周年・皇學館中学校
創立35周年記念事業寄付金
進捗状況

平成21年 8月31日現在

区 分	申込件数	申込金額(円)	納入金額(円)
宗 教 界	2	150,000	150,000
企 業	9	1,090,000	1,000,000
一 般 (旧教職員・篤志家等)	15	415,000	415,000
同窓会会員	117	2,418,000	2,418,000
後援会賛助会員	54	880,000	880,000
本法人関係	123	3,645,000	3,450,000
合 計	320	8,598,000	8,313,000

- 同窓会会員**
神奈川県
一万円 望月 彰美様
三重県
五万円 東端 正晴様
五万円 小林 重典様
五万円 山本 周也様
五万円 城山 高治様
五万円 山路亜有美様
一万円 山本 知保様
一万円 福井 一則様
- 後援会賛助会員**
三重県
五万円 黒川 典雄様
五万円 岡田 元様
五万円 大山 徳仁様
一万円 山中 信雄様
一万円 今枝 清美様
一万円 奥村 一彦様
一万円 寺田 直喜様
一万円 角河 和幸様
- 個人情報保護に関する法律の施行に伴い、「芳名・金額等の掲載を希望されない方々につきましては、別記とさせていただきます。◆専の会/84名 ◆同窓会員/4名 ◆後援会賛助会員/1名 ◆教職員/1名

平成二十一年度皇學館
館友会全国大会が八月二
十三日、静岡市の「ホテ
ルアソシア静岡」で盛大
に開催され、二百名を超
える館友が旧交を温めあ
った。ご多忙にも関わら



平成21年度 全国館友大会
静岡に200名が集う
新調した館旗も披露

ず、来賓として矢田部正
巳神社本庁総長・静岡県
神社庁長、落合偉久能
山東照宮宮司、打田文博
小國神社宮司、河村基夫
秋葉山本宮秋葉神社宮
司、鷹司尚武神宮大宮司



館友会により新調された
神宮皇學館旗。

(代理奥西道浩欄直)に
ご出席賜り、大会に華を
添えて頂いた。
総会では佐古理事長か
ら法人の現状、併学長よ
り現代日本社会学部設
置経緯、宮川新学部長予
定者から新学部の内容に
ついて詳細な説明が行わ
れ、議事についてはすべ
て満場一致で承認され
た。
また、本学において式
典には必ず掲げていた戦
前の館旗が使用の限界に
達したこと、昨年度
館友会により複製して頂
いた。館旗が出席者に披
露され、館友諸氏による
次代の本学に寄せる熱い
気持ちが盛大なる拍手に
より伝わってきた。
その後、静岡県東民部
世界遺産推進室の石川善
久氏による記念講演があ
り、富士山を世界遺産に
登録推進すべく活動を行
っている状況を話してい
ただいた。続いて地元保
存会などによる厳粛にも
壮大な木遣・お囃子の清
興が行われた。懇親会は
和やかな雰囲気の中、大
いに盛り上がり、次回伊
勢での再会を誓い合い、
全日程を終了した。



OB・OG訪問

先輩、
お元気ですか



毛利 正守氏

大阪市立大学名誉教授
武庫川女子大学教授

古典の世界に魅せられて四十七
年がたちました。その奥深さに現
在も研究を続けています。
実家が代々の社家だったので父
の勧めで皇學館へ。神職課程の授
業はとても新鮮でした。
一方、勉強を進めるうちに古典
文学へも魅かれていきました。古
事記をテーマに扱った卒業論文が
研究誌『芸林』に掲載されたこと
も、研究への熱意を駆り立ててく
れました。東京の神社へ内定をも
らっていました。が、当時新設され
た大学院へ進みました。
大学院修了後、関西の大学で教
育と研究に携わり、三十代の後半
に幸いにも一連の万葉集の字余り
研究に対して、金田一京助賞をい
ただきました。地道に、真面目に
研究にとり組むことで、いつか認
めてもらえるかと実感した出来事
でした。
現在は週一回、皇學館大学大学
院でも万葉集と古事記を中心に教
えています。幅広い年齢層の院生
はみな熱心に耳を傾けてくれるの
で、来校するのが楽しみです。古
典、とくに上代の文学の魅力は、
古代の人たちの素朴で雄大な心が
伝わってくることです。学生のみ
なさんも一生をかけて追究できる
ようなテーマを見つけ、お互いに
切磋琢磨しあい、知識を深めてい
つて下さい。

